



マダニから身を守るう!



ダニ媒介感染症とは

マダニ類やツツガムシ類は、やぶや草むらなどに生息している「ダニ」です。病原体を保有するマダニやツツガムシに刺されることによって、感染症にかかることがあります。

◆但馬で確認されている感染症

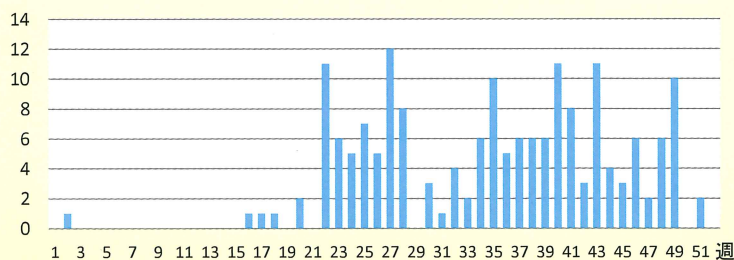
病名	日本紅斑熱	つつが虫病	重症熱性血小板減少症候群(SFTS)
病原体	日本紅斑熱リケッチア	つつが虫病リケッチア	SFTSウイルス
媒介ダニ	マダニ (吸血前体長3~8mm)	ツツガムシの幼虫 (体長 0.2~0.5mm)	マダニ (吸血前体長3~8mm)
国内発生状況	主に西日本	全国	西日本中心 ^{※2}
潜伏期間 ^{※1}	2~8日	5~14日	6~14日
症状	発熱・発疹・刺し口 重症化し死亡することもある		発熱・消化器症状 重症化し死亡することもある
治療	テトラサイクリン系の抗菌薬が有効		有効な治療法がなく、対症療法が主体

※1:感染してから症状が現れるまでの期間

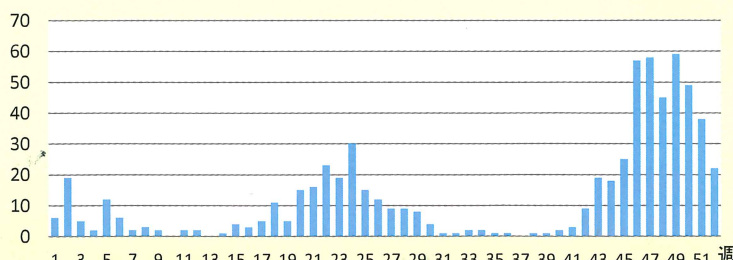
※2:ウイルスを保有しているマダニは広く分布していると考えられています

◆ダニ媒介感染症の発生状況(全国)

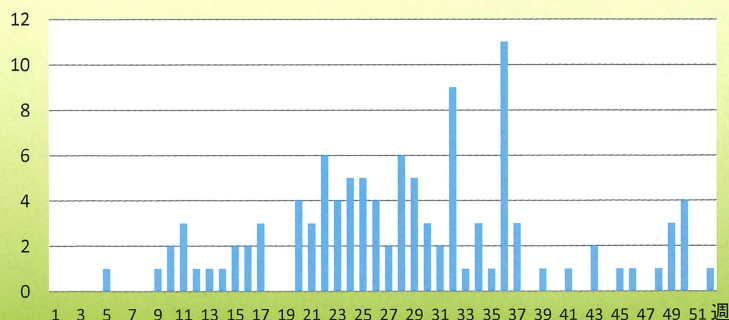
日本紅斑熱発生件数(H25~26累計)



つつが虫病発生件数(H25~26累計)



SFTS発生件数(H25~26累計)



日本紅斑熱は、主に西日本を中心に患者数が増加しており、H26年は241件発生しています。発生時期は春から秋の長い期間に継続して発生しています。

つつが虫病は、近年全国で年間で300~400件の発生があり、春~初夏、および秋~初冬の2つの発生のピークがみられます。

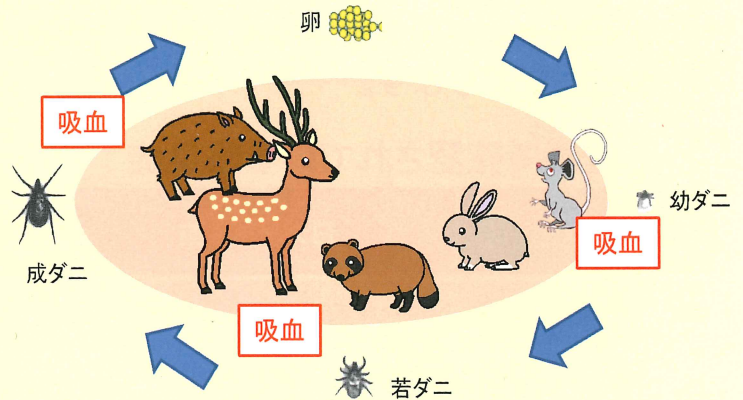
重症熱性血小板減少症候群(SFTS)は、H25年1月に国内で初めて確認され、H27年12月2日現在166件の発生が報告されています。5月~8月の発症例が多く、西日本を中心に20府県から報告されています。

マダニの基礎知識

マダニ類は山野に生息する大型のダニで、シカやイノシシ、野ウサギなどの野生動物が出没する環境に多く生息しています。民家の裏山や庭先、畑、あぜ道などにも生息し、ヒトや猫、犬などにも吸血します。マダニは「ダニ」といっても、食品や衣類、寝具など、家屋内に生息するダニとは種類が異なります。

◆マダニの生活(吸血)サイクル

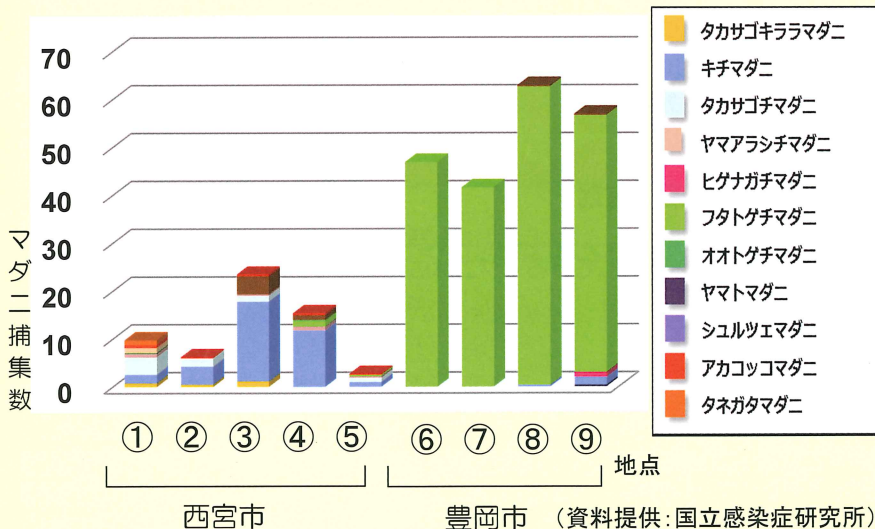
マダニは、成長の各ステージで1回ずつ吸血します。幼ダニ、若ダニは、発育・脱皮のため、成ダニは産卵のため、生涯で3回吸血します。マダニの多くは春から秋(3月~11月)にかけて活動が活発になります。



◆但馬はマダニが多い！！

兵庫県内2地域(9地点)におけるマダニ相の比較

H26年4月下旬~5月上旬調査 (調査者1人が30分間に捕まえたマダニの数)



但馬に生息する主なマダニ



H26年に国立感染症研究所が行った調査によると、地域や季節によって、マダニ相(種類)やその割合、生息数に違いがあることがわかりました。

年間を通じて、春にマダニが最も多く捕集されています。

ツツガムシの基礎知識

ツツガムシは非常に小さなダニの一種で、日本には120種類以上のツツガムシが生息しています。この中で、つつが虫病を媒介するものとして、3種類*3が知られています。

ツツガムシは幼虫時に一度だけ動物の皮膚に吸着して体液などを吸収します。春になると吸着活動を始めます。夏に産卵し、秋にふ化して幼虫になり活動しますが、冬は土の中で過ごします。つつが虫病は春と秋に患者が多いのが特徴です。



ツツガムシ

(提供: 兵庫県立大学 自然環境科学研究所)

*3 アカツツガムシ・タテツツガムシ・フトゲツツガムシの3種。これらのダニの0.1~3%が病原体を保有していると言われています。

マダニ等から身を守るために

マダニは春から秋にかけて活動が活発になります。
山や草むらなどに立ち入る際は、以下のことに注意しましょう。

◆服装について～腕・足などの肌の露出を避けましょう

- ・ 長袖・長ズボンを着用（長靴を履くとなお良い）する
- ・ ズボンの裾を靴下の中に入れる
- ・ シャツの裾はズボンの中に入れる
- ・ ダニの付着が確認できるよう、白色系の服装を着用する
- ・ ダニ忌避剤の使用

下半身をしっかり覆う
ことがポイントです！



◆服装以外の注意

- ・ 地面に直接寝転んだり、腰を下ろしたりしない
- ・ 上着や作業着は家の中に持ち込まない
- ・ 粘着テープなどで服についたダニを取り除く
- ・ 山野から戻ったらすぐに衣服を着替え、入浴する
- ・ 飼育しているイヌやネコにダニ忌避剤を用いる

◆マダニが吸血しやすい場所

マダニは最初に付着した部位に吸血するのではなく、這い回って吸血部位を探します。マダニの種類によって好む部位が違います。
着替え時や入浴時などに、ダニが吸着していないか確認して下さい。



顔面

頭部

胸部



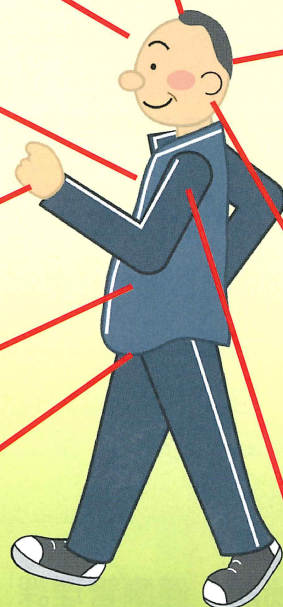
耳

0%

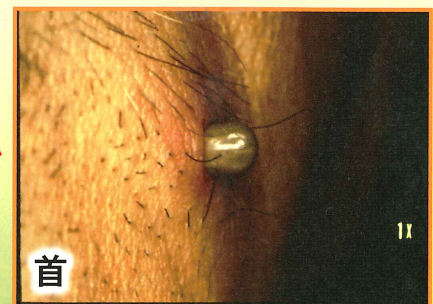
手首より先に
ダニが吸着し
た事例はあり
ません。

腹部

下半身



上腕部



首

◆マダニ忌避剤について

ほとんどの製品で、「ディート」が害虫忌避の有効成分として使われています。人の肌の露出した部分や衣類などに使用することで、高い忌避効果が期待できます。人体に対する安全性も確認されていますが、用法・用量を守って使用して下さい。

➤ 上手に使い分けましょう

忌避剤には様々なタイプがあります。手軽に塗布できるエアゾールタイプやハンドスプレータイプ、むらなく塗れて舞い散りがないジェルタイプ、ポケットに入れて持ち運べるティッシュタイプなど、用途に応じて選びましょう。

➤ 火気のそばで使用しないで下さい

忌避剤によっては、アルコールを含有するものがあります。火気のそばで使用しないで下さい。



➤ 小さいお子さんの使用にご注意下さい

12歳未満のお子さんに使用する場合は、保護者等の指導監督の下で、用法・用量を守って使用して下さい。6ヶ月未満の乳児には使用しないで下さい。顔には使用しないで下さい。あらかじめ、上腕の内側など皮膚の柔らかいところに少量塗り、異常のないことを確かめてから使用しましょう。

マダニに刺されたら？

マダニ類等の多くは長時間吸血します。見つけたら早めに取り除くことが大切です。

自分でとる場合は、先の細いピンセットを用い、出来るだけ、皮膚に近い部分でダニをつまみ、つぶさないように注意して取り除きます。



無理に取り除こうとすると、マダニの一部が皮膚内に残ってしまい、化膿することがあるので、出来れば医療機関(皮膚科など)で適切な処置を受けて下さい。

ワセリン法も有効

(提供:兵庫県立大学 自然環境科学研究所)

マダニの上にワセリンやハンドクリームなどを厚く塗る方法です。30分程度でマダニが外れやすくなる場合があります。刺されて早いうちに実施すると効果的です。



刺されてしばらく(数日~2週程度)は体調の変化に注意し、発熱や発疹、嘔吐、下痢などの症状が出た場合は、医療機関に受診し、ダニに刺されたことを医師に伝えましょう。

問い合わせ先

豊岡健康福祉事務所
朝来健康福祉事務所

健康管理課
地域保健課

電話0796-26-3660
電話079-672-6867